

## 平成29年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム

- 1 日時：会場 平成30年2月11日（日） 10:00～16:00 県立情報交流センター Big・U
- 2 参加者 教職員、保護者、地域住民、教育委員会関係者 等  
合計 322名
- 3 内容

### ◆オープニング 児童・生徒による発表

田辺市立会津小学校 県立有田中央高等学校



### ◆講演 「子供の未来のために まちの未来のために」

NPO法人 まちと学校のみらい代表理事 竹原 和泉 氏

#### ○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

- ・学校運営協議会では、熟議（熟慮と議論）が大切
- ・最大の応援団でもあり、時には辛口の友人でもある
- ・学校運営協議会と地域学校協働活動それぞれが連携・協働することで、何ができるのかを考えていく

#### ○プロセスを共有する

- ・情報の共有…キーパーソンを見つける  
コミュニティカレンダーを地域全体に配布
- ↓
- ・ミッション・課題の共有…会議の工夫  
場の力を活かす（地域と学校をむすぶ場を作る）
- ↓
- ・アクションの共有…学校のニーズを大切に  
それぞれの役割を明確にする
- ↓
- ・小さな成功体験の共有…次の力がわいてくる重要な経験

#### ○熟議を生み出す会議の活性化

- ・会議の仕方、席の決め方の工夫
- ・大きな声や強い意見だけでなく、様々な意見を大切に



## ○支援から連携・協働へ

- ・地域の強みとなるテーマでつながる
- ・地域の活きた情報は人が運ぶ  
コーディネーターがつなぐ
- ・「一緒にやってみましょう！」を合言葉にパートナーとして取り組む

## ◆物品販売

県立有田中央高等学校、県立熊野高等学校、県立新翔高等学校



## ◆CSマイスターによる座談会

「あんなこと!こんなこと!!コミュニティ・スクールだからできること!!!」

アドバイザー	文部科学省初等中等教育局参事官付 学校運営支援企画官	藤岡 謙一 氏
パネリスト (CSマイスターの皆さん)		
	福岡県春日市立白水小学校 学校運営協議会	今村 隆信 氏
	大阪府美加の台中学校区 ゆめ☆まなびネット	
	学校支援コーディネーター・学校運営協議会 副会長	大谷 裕美子 氏
	山形県大石田町教育委員会 教育長	布川 元 氏
コーディネーター		
	和歌山県きのくに共有コミュニティ推進協議部会 会長	
	元新宮市立緑丘中学校 校長	清水 雅昭 氏

## 【CSマイスターからの御意見】

(今村 CSマイスター)

コミュニティ・スクールだからできることは3つある。

- 1つ目は、学校・家庭・地域が一緒になって教育カリキュラムを作ることができる。
- 2つ目は、学力、家庭の教育力が向上する
- 3つ目は、地域が活性化する。

学校・家庭・地域が、どんな子供に育てたいか目標を共有し、活動をすることができ、学校と地域の双方向の関係ができていく。

(布川 CSマイスター)

キャリア教育、ものづくり貢献等、今まで取り組んでいた高校の取組がそのままコミュニティ・スクールに活かされ、地域の人に子供たちの力を認知してもらうことができる。目線を少し変えることで、コミュニティ・スクールのいい題材となる。



(藤岡学校運営支援企画官)

学校・家庭・地域の連携を否定する人はいない。学校と地域の連携は、国としても学校支援活動等、様々な事業を進め、多くの学校で取り組まれてきた。しかし、学校と地域の思いにズレが生じ、その活動に行き詰まりが出てきて、コミュニティ・スクールへと移行した。今までの取り組みの財産があるからこそコミュニティ・スクールにステップアップできる。

(今村 CS マイスター)

子供たちは学校で、いろいろな活動に取り組んでいる。一方、地域では、子供は参加するだけになりがちである。地域の中で子供たちに参画させる行事を行うことが、地域の活性化につながる。

(布川 CS マイスター)

それぞれのゴールのイメージとして  
小学校・・・地域共生（地域の人に教えてもらう。）  
中学校・・・地域貢献（中学生が地域貢献するために町の課題を伝え、考えさせる。）  
高校・・・地域の課題解決  
を目標に取り組んでいる。

(大谷 CS マイスター)

地域の人活躍しなければコミュニティ・スクールは進まない。地域の人とのつながりが大切である。導入当初、学校運営協議会の委員をあて職で決めていると、形だけの会になってしまった。人材とは、人の財産。大事なものは「きっかけ 仕掛け 声かけ」。人が伝えていくことでより広がっていく。

(今村 CS マイスター)

あて職が有効なケースもある。何か活動をする時、学校運営協議会で決めたことを地域に伝えるためには、あて職の人を入れることも一つの手になる。また、行事を増やすのではなく、生活科の授業など、カリキュラムに取り入れることで、教員の意識付けができてくる。

(大谷 CS マイスター・布川 CS マイスター)

行事のやり方を工夫することで地域の活性化につながる。例えば、中学生が地域の行事に主体的に参画することで地域の活性化につながる。中学生の働きは大きいと感じている。

(大谷 CS マイスター)

たくさんの大人と出会った子供たちは、きっと心豊かに育っていく。子供たちが夢や希望をもった未来になるように、今、大人たちがコミュニティ・スクールに取り組んでいくことで、子供たちは育っていく。

(布川 CS マイスター)

コミュニティ・スクールを活用して、子供たちのどんな能力と資質を育てるのか、いつも考えている。今の子供たちが20年後大人になり、心に残るコミュニティ・スクールになるために、取り組んでいただきたい。

## 【まとめ】

地域を、学校をよくしたいと誰もが思っている。一方、学校には様々な課題がある。コミュニティ・スクールになることで、子供たちや地域をよりよくしていくことができる。コミュニティ・スクールのキーワードは「当事者」であ

る。地域の方が外部の人ではなく、学校の当事者になっていただく。学校が地域の当事者になっていく。そして、子供たちが地域の当事者になっていく。

コミュニティ・スクールの主な3つの機能のうち、学校運営の基本方針の承認を得ることが、一番の肝である。当事者意識を生み出すためには、学校の取り組みに責任をもって承認していただくことが必要である。子供たちのために、コミュニティ・スクールを前向きに考え、進めていただきたい。

#### ◆交流会

##### 第1交流会【助言：今村 隆信 氏】

テーマ：「なぜ、今、社会に開かれた教育課程なのか」

##### 第2交流会【助言：布川 元 氏】

テーマ：

「考えましょう！これからの高等学校・特別支援学校におけるコミュニティ・スクール」

実践発表：「コミュニティ・スクールを導入した県立学校の取組」

笠田高等学校・有田中央高等学校・南部高等学校

熊野高等学校・串本古座高等学校・紀北支援学校

##### 第3交流会【助言：大谷 裕美子 氏】

テーマ：「今こそもっと地域の力を！」

実践発表：「西向小・中学校でのコミュニティ・スクールの取組」

串本町教育委員会 教育課 班長

西向小・中学校運営協議会

大芝 英智 氏

##### 第4交流会【助言：竹原 和泉 氏】

テーマ：「つながりから広げる子供の居場所づくり」

実践発表：「見方を変えれば味方になれる」

～人形劇による啓発活動から見た学校と地域のつながりの大切さ～

障害児・病弱児理解啓発チーム オレンジキッズ



#### 4 参加者の声（アンケートより）

（市町村教育委員会職員）

- ・地域の未来を作るといふ共通認識をみんなでもちたいと感じた。

（保護者・地域住民）

- ・子供のためという思いは、学校も地域も家庭もあると思うので、今日学んだことを参考にできることを考え、実践していきたい。